

# 旭陵

発行者  
岐阜県立中津高等学校  
同窓会  
題字は岡崎 久校長  
タイトルバックは栗谷本文三  
(22回生)

## 母校創立100周年記念に向けて

聳ゆる高嶺に

青春を見守られた二〇〇年

朝日の直射す丘

その丘に我等集う

### 中津高等女学校校歌

長瀬幸夫 採譜  
田中宏忠 編曲

一、旭岡の花の蔭  
中津川辺の月のしもと  
四季の暁をみなここに  
集めてたてる学の舎

二、春を待ちえて咲き匂ふ  
花を学びの友とせん  
秋てる月のくまなきは  
我等が心のかゝみなり

三、すめら御国の女てよ  
道をたどりてまよはずも  
送りむかふる春秋を  
むつみて共にいそしまん

### 中津高等女学校校歌

葛原 蘭 作詞  
小松耕輔 作曲

一、恵那山 空に聳ゆるは  
希望の高嶺の水知の染徴  
尊とき聖勅はひたぶるに  
登る坂路の葉にて  
旭ヶ岡にいそしむは  
やさし  
みやびの乙女子われら

二、恵那峡 水の豊けきは  
深くも清きは何の啓示  
物みな新に進みゆく  
日毎夜の鑑にて  
旭ヶ岡にいそしむは  
やさし  
みやびの乙女子われら

### 中津高等女学校校歌

伊藤嘉夫 作詞  
河野信一 作曲

一、高鳴るや黎明の鐘  
自由と個人の尊厳  
明けわたる日の光  
朝日の直射す丘  
その丘に我等集う

二、天雲に恵那山聳つ  
思索と自己の完成  
遠白き学の道  
未見の我を見出で  
拓きゆく我等若し

三、太古より木曾川は行く  
昼夜を止めざる流動  
勤労と自治陶冶  
風土にはぐくまれ  
新生の我等勵し

四、新たな世の柱となり  
母校の名を顕わさん  
光明と希望に燃えて  
朝日の直射す丘  
その丘に我等集う







# 温故知新

中津高校同窓会会長 吉川光彦 (五回生)

日露戦争について司馬遼太郎が「坂の上の雲」に書いておられます。日本は明治二十八年日清講和条約で得た遼東半島も三国干渉によって放棄し、一方、清国が日本に支払うべき賠償金二億テール(約三億円)をロシアとフランスが外債として引き受け、その見返りにロシアは旅順、大連の租借権と東清鉄道の敷設権、更に旅順、大連まで南滿州鉄道の敷設権を得て、満州と朝鮮を支配する足がかりとなりました。

ロシアの南下政策に脅かされた日本と、極東を支配しようとするロシアに反対するイギリスは日英同盟を結びロシアに対抗しました。そんな背景から勃発した日露戦争は明治三十七年二月に開戦し、旅順会戦、奉天会戦に於いて圧倒的多勢のロシアに挑み、凄惨な戦いと多大な犠牲をはいながらも大山軍は勝利しました。翌明治三十八年五月対馬海峽に於いて東郷艦隊はバルチック艦隊を全滅せしめロシアの敗戦を決定的なものとししました。

しかし両国の犠牲は甚大で日本の戦死者十二万人、艦船の喪失九一隻、軍費十五億円。ロシアは十一万五千人、九十八隻、二十二億円となりました。当然日本の戦力は底をつき、もしこ

れ以上に戦争が継続されたら結果はどうなるんだか分からなかったと司馬遼太郎は書いておられます。国内では、当時国際的に常識であった戦争賠償金を取れないという抗議、農村の疲弊による社会問題が惹起し、ロシアでは革命がおこって帝政は崩壊し両国ともに戦争どころでない状態となりました。

日本にとっては乾坤一擲の日露戦争も結果は勝ち戦で国内はわいていた時、我が子を戦地へ送ることのできなかった間李石衛門翁は岐阜県下では三番目の女学校をたてて、女子に教育を授けることとしました。

疲弊していた当時のことです。資産家ならば中津町へお金を寄付する事もありましたが、間翁は日露戦争を見て、それまでにない世界観をひらかれ、日本の将来を考えられたのでしよう。子弟の教育に力を注ぐことを決断されました。これが翁の非凡なところでありました。そして早くも翌明治三十九(一九〇六)年四月に我が母校の誕生となったのであります。



「間主右衛門翁」像と「草創のころ」

一卒業生として思うことは、司馬遼太郎によつて一〇〇年昔を学び、当時の篤志家が考えたことを知り、教育を考え、母校を慕い、奉仕の心を奮い、今我々に出来ること、実践することは何かでありませう。二十一世紀はこれまでに以上グローバルな時代となり

ました。ビジネスは勿論のこと、旅行も外国旅行が普通になり、外国語が出来ることが常識となりました。そんな時代において母校の後輩が将来、国際人として世界で活躍できるように、在学中に外国留学することを勧めたため、一〇〇周年記念事業として奨学金制度を設けることも有益であると考へます。



# 永遠のまほろば

中津高等学校校長 岡崎 久

私は昨年四月に、岐阜県立中津高等学校に山本校長先生の後を受け着任いたしました。恵那地域は、はじめてであり、この一〇〇年にならうとする伝統ある学校に着任し、生徒の教育に従事できることを大変うれしく思います。

私が本校に参りまして一〇〇年昔を学び、当時の篤志家が考えたことを知り、教育を考え、母校を慕い、奉仕の心を奮い、今我々に出来ること、実践することは何かでありませう。二十一世紀はこれまでに以上グローバルな時代となり

ました。ビジネスは勿論のこと、旅行も外国旅行が普通になり、外国語が出来ることが常識となりました。そんな時代において母校の後輩が将来、国際人として世界で活躍できるように、在学中に外国留学することを勧めたため、一〇〇周年記念事業として奨学金制度を設けることも有益であると考へます。

に満ちたふるさとであり、「永遠のまほろば」であります。現在中津高校は、全日制普通科として一学年六学級(英語コース、自然科コース)、普通科四、ただし一年生は普通科三の五学級)で、生徒数は六七九名(男二九八、女三八一)、定時制普通科として一学年一学級で生徒数は七十四名(男四十一、女三十三)の生徒が在籍し、勉学に部活動に励んでいます。中津高校は、いまだ大きく変わろうとしています。本校は平成十九年度までに恵那北高校と統合され、普通科の全日制単科制高校となります。新しいタイプの学校として、これまでの伝統ある教育活動や教育実績をふまえて、地域の実態等も考慮し、「進学を重視した単科制高校」をめざしてまいります。

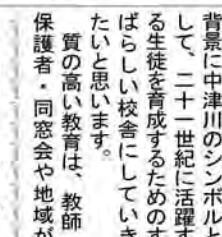
ここで単位制高校の一般的なことについて説明します。普通科の単位制高校は、生徒の進路希望及び多様な学習意欲に対応するため、さまざまな科目を開講することにより、生徒一人一人の能力・適性・興味・関心・進路希望に応じた科目選択と授業を展開することが出来ます。特に進路実績を上げるために授業形態、指導方法

学習集団等を工夫・改善

を行い、効率的な授業を実施し、きめ細かい指導を行うことが出来ます。従来の教育課程は、学校で準備された教科・科目をクラス単位で一斉に学習するものでした。単位制高校は、準備された教科・科目の中から生徒一人一人が進路や興味・関心に応じた科目を選択し、学習するものです。生徒一人一人の教育課程があると考へてもよいと思います。

地域の教育力の活用や高大連携(高校と大学の連携)による学習も可能になり、生徒の個々のニーズに応じた幅広い教育が期待できます。

育てたい生徒像として(日)グローバル社会に対応できる知性やコミュニケーション能力を持ち、たくましく生きる生徒(月)学びの目的意識や探求心をもち、自己の目標に向けて自主的・自立的に努力する生徒(火)集中して学習する習慣を身につけるとともに、部活動、学校祭、ボランティア活動など校外外活動にも積極的に取り組む生徒。本校の教育目標としては、「二十一世紀のグローバル社会の中で活躍する知・情・意の調和のとれた人間性豊かなたくましい生徒の育成」を推進します。中津高校の伝統ある教育活動を継承し



創立90周年記念公開講座の末松先生

# 文化功労者に

末松安晴先生 (二回生)

本校の先輩にあたる元東京工業大学学長 現国立情報科学研究所所長の末松安晴氏(二回生)が、平成十五年度の文化功労者に選出されました。

氏は日本の科学振興への貢献もさることながら、故郷の小さな後輩の指導にも大変尽力されております。毎年、中津川においてサマーサイエンススクールを開催され、理科離

連携し、一体となって行っていかなければなりません。生徒にとって高校生活は、一生の人生の中で二度と戻ってこない貴重な時間です。今後ともよりいっそう同窓会の絶大なるご協力をお願いいたします。職員一同全力投球で教育に努力し、中津高校の名をますます高めていきたいと思っております。母校へのさらなるご支援をお願い致しますとともに、みなさまのご活躍を心より祈念いたします。

れ傾向の強い子供達に科学を学ぶ楽しさを教える試みが続けておられます。この授業は本年度十周年を迎えます。本校では講堂の壁面に横断幕を掲げてお祝いを致しました。



# 平成十六年 春の叙勲

- 瑞宝小綬章 杉山 仁先生 (中津高等学校 校長在任期間)
- 教育功勞 昭和六十二年四月より平成二年三月
- 瑞宝小綬章 林 鈺三氏 (三回生)
- 通商産業行政事務功勞 元特許庁審判部審判長



# 特集 母校・中津高校創立100周年記念事業に向けて



## 同窓会の力を結集して魅力ある グローバルな中津高校を創ろう

### グローバルな発想を海外留学生奨学金制度

100周年記念実行委員長 三尾義彦(十二回生)

二〇〇五年は県立中津高等学校の一〇〇周年となりますが、時代の変化が激しく二十世紀の後半からベルリンの壁の崩壊、ソ連邦の解体、中国をはじめとする共産国家の市場開放などに  
より、また航空機などの交通手段の著しい発展や地球人口の増加により地球が狭く感じられるようになりました。これらの現象から世界的にグローバルゼーションの波が高まり異文化の理解が今まで以上に、重要な課題となってきました。

その中に地域に開かれた図書館が併設される予定です。蔵書十万冊を目指して、立派な図書館をつくりたいです。門のない高校としてあらゆる世代、地域に開かれた生涯学習機関を創り市民の豊かな人生の実現に役立てたいと思います。第三に中津高校の伝統ある美術等の展示会を行い、又校歌のリニューアル化を行い名フィル交響楽団による音楽会を開催します。これにより中津高校が中津川の芸術、文化の発信基地であることを、市民にPRします。

これにより同窓生同士の交流と心の結集を計り、さらなる一〇〇年に向かって力強く末久しい発展を発信しようではありませんか。終わりにあたり、この一〇〇周年の記念式典を契機に学校においては国際化と情報化を積極的に推進し、一方国際化の波に押し流されないアイデンティティを個人レベルで確立する必要があり。今日本の高校生は世界的なレベルからは発想が幼稚すぎると思っています。グローバルな視野とローカルな魂を持ち合わせた世界に通じる個性溢れた人材の育成を目指そうではありませんか。皆さまの絶大なご協力を心からお願いいたします。



## 総務

### 委員会

総務委員長 間 譲嗣(二回生)

明治三十九年の中津高等女学校の創設を発祥とする我が母校、県立中津高等学校は一年後の平成十七年に目出度く一〇〇周年の大きな節目を迎えます。何はとあれ、世紀の足跡と輝かしい伝統を在校生、卒業生はもとより、歴代教職員はじめ多くの関係者共々祝福致したいと思っております。振り返れば、この一〇〇年の歳月は我が国にとって激動の時世でありました。私の記憶に生々しい太平洋戦争と敗戦、続く戦後の混乱期をとって見ても、変革の荒波は一地方の高等学校をも渦中に巻き込んだ混迷の時代でありました。私自身、昭和二十年の中学校(旧制)入学後三年間に二度も校名が変更され、更に二十四年には学区制施行により中津高校へ編入されるなど、学制改革の真っ只中に青春時代を過ごしたものでした。当時、中津高校は複数専科を有する総合制高校として戦後の再出発を期しておりましたが、折しも二度に亘る大火に遭遇し厳しい受難の一時期でありました。しかし、母校はこうした時々の困難にもかかわらず、多くの関係者各位のご尽力によりこれ等を克服し、既に二

中津川の将来のことを考えても、日本人がもっと外国のことを理解する経験をもつことが大切になってきます。そして実はこのことは日本人の日本人自身の理解にも繋がってくるのです。実は、私自身も年間三十回以上海外に出かけ、絶えず外から日本のことを見ていますが、そのため、日本のごとく、自分自身の立場をよくわかってきます。中国、韓国、台湾を始めとする東アジアの学生はもとより、

**100周年記念事業**

**GLOCALな発想を海外留学生奨学金制度**

**校歌のオーケストラ編曲・演奏会**  
名古屋フィルハーモニーオーケストラ

**同窓生 在校生 教職員による 芸術展**

**100周年記念 記念誌 発行**

**地域に開かれた図書館を目指して 蔵書100,000冊 充実費!**

**同窓生の芸術作品 買い上げ**

**同窓生の交流と心の結集 創立100周年記念合同同窓会**

平成十四年五月の同窓会総会において創立一〇〇周年実行委員会が発足し、爾来、三尾義彦委員長のもと五つの委員会が各々の課題について協議を重ねてきましたが、この程、記念式典、記念事業、記念誌等の輪郭が、明らかに定まって参りました。私の担当する総務委員では広報や事業資金の取り扱い等、総務の課題について今後検討を進めて参る所存です。何れにせよ、各地で活躍の同窓生始め関係者のご理解がなく、では為し得ない大事業でありますので、皆様との絶大なご支援とご協力を切にお願い致します。



創設当時の教科書







特集 母校・中津高校創立100周年記念事業に向けて

100周年記念事業



記念式典委員長 篠田敏政 (八回生)

記念式典委員長 篠田敏政
中津高校創立100周年記念式典及び祝宴事業の概要

早いもので100周年実
行委員会が平成十四年に設
も開きましたが、まだまだ
立されて平成十七年秋の一
全面的にも私の委員会でも
〇〇周年記念日までは、
完全に固まった訳ではあり
ませんが、今までの話し合
いでしたが、もう来年とな
いの内容と決定した計画を
つてしましました。その間
お知らせ致します

一、記念式典

日時 平成十七年十月二十一日(土)
午前十時より

場所 中津高校体育館

出席者 来賓 同窓生、在校生、現旧職員

講演会 中津高校体育館にて

演奏会 中津川文化会館にて

二、合同同窓会

日時 平成十七年十月二十三日(日)
午後十二時三十分より十六時

場所 東美濃ふれあいセンター(約四〇〇坪)
中津川市麻子川 中津川公園内

出席者 同窓生、旧職員、現職員

参加費 一人 五、〇〇〇円

参加目標 一五〇〇名

☆スケジュール

\* A M 八時 シャトルバスJ R中津川駅出発
会場八時二十分着

\* A M 九時 O B、在校生スポーツ観試合
グラウンド十一時三十分まで

(野球・サッカー・バスケット等)
\* A M 九時 合唱部、演劇部、吹奏部等交歓会
歌舞伎ホール十一時三十分まで

\* A M 十一時 シャトルバスJ R中津川駅出発
十分毎にシャトルバスP M十二時

\* P M 十二時三十分 黙祷 開会 挨拶

\* P M 十三時 祝宴

オーブニング「是より木曾路」
中津高吹奏楽部O B 校歌他四、五曲

学年別出席者紹介 ビッグイベント
懇親会

\* P M 十六時 閉会



合同同窓会会場 東美濃ふれあいセンター

以上が現在の計画です。
まだまだ検討の余地が有り
ます。特にビッグイベント
ですが、由紀さおり&安田
幸子・デュークエイセス、
ダークダックス等の声も上
がっています。予算等の問
題で卒業生関係に絞ったら
意見もありません。

いずれに致しましてもこ
の100周年記念は、いかに
お祝いをするかです。そし
て二十一日二十三日に各学
年の同窓会を計画して頂き
合同同窓会に参加をお願い
したいのです。中津川市内
の旅館等も限りがあります
ので恵那市や木曾方面まで
広げて計画して下さい。近
日中に各学年の責任委員会
を逐次検討しておりますが、
選任して頂き、実行委員会
にお願い致します。最後にな
りますが、卒業生の皆様ど
うか一人でも多く参加をお
待ちしております。

100周年記念事業



記念誌委員長 常田順子 (十四回生)

記念誌 委員会

平成十五年五月の中津高校
同窓会総会において100
周年記念行事の各委員会が
承認され編集委員会も正式
に発足致しました。

編集委員は現在のところ
同窓会委員十名、学校委員
九名で構成されております。

編集委員会の仕事としてま
編集委員会の発行が
主であります。並行して
同窓会新聞「旭陵だより」
の編集も行っております。

普及同窓会新聞は隔年の
発行でありましたが、平成
十七年の100周年記念行
事の進捗状況と同窓会委員
各位にお知らせし、同窓生
全員の力を結集して事業の
成功を図ろうと今年臨時号
を発行いたします。

100周年記念誌は平成
十七年十月に行なわれる記
念行事の内容も収録した内容
で記念行事後一年以内に
発行するということに決ま
っております。

遅くとも平成十八年三月
までには冊子として皆様方
のお手元にお届けしたいと
思っております。

記念誌に盛り込む内容は
逐次検討しておりますが、
編集委員だけではなかなか
100周年を網羅して遺漏の
ない内容にすることは大変
で、同窓生各位のお力をお
貸しいただきたいものと思

つております。
学年委員を通じてお願い
しているところは二点あり
ます。
一点は各学年で活躍され
た、誇りに思う同窓生を推
薦していただきたいという
ことです。
中津高校は実に様々な分
野で活躍される卒業生を輩
出していると思われま
す。この方々と思われる方がご
ざいましたら学年委員でも
同窓会に直接でも結構です
のでぜひお知らせください。
もう一点は海外在住の卒業
生に寄稿文をお願いしま
す。この方々をお持ちになり
ます。

ご存知の方がございま
し
たらお教えください。
同窓会の記念誌は過去七
十年間、八十周年の二回刊
行されております。
今回の100周年記念誌
はその内容を踏まえ、次の
100周年を見据え、変貌
する時代の中で中津高卒業
生としての誇りをもてる記
念誌にしたいと編集委員一
同決意しております。

学校の歌 (読売新聞より)

誰かが歌い皆が和す
年月を越え人を結ぶ
おおいに楽しんで僕は書く
池辺晋一郎



校(東京都立新宿高)は、全校
生徒が千葉県海岸にある学校
の施設で毎夏、何日間かの合宿
生活を送った。先輩たちも幾人
か参加し、泳ぎの合間に古くも
ら学校に伝わる愛唱歌の数々を
教えてくれた。旧制中学時代の
校歌や、ふざけた歌詞の教員歌
などだ。夜の浜辺で車座になり、
降るような星々に向かつて僕た
ちは覚えたての歌を、歌うとい
うより、叫びたてたのだ。
それらの歌、あれから四十年
以上を経て、いまだに忘れない
のである。時に同級生仲間が集
うと、誰かが歌い出し、皆が和
す。何やら不思議な現象だ。
九年間だが、四国の旧制松山
高校に伝わる寮歌や愛唱歌を用
いて、オーケストラと合唱のた
めの「カンタータ」を書いた。
何十曲も載った歌集から十数曲
を選び、僕のオリジナルの序奏
や間奏なども加え、構成すると
三楽章七分の曲になった。
仕事にかかる前、思った。ど
うせ(と)言っては失礼だが、蜜
声張り上げて歌った「蜜歌(こん
な言葉があるかな...)ばかりだ
ろう、と。ところが、歌集を開
くと幾つももあるのだ。心打つ
しみじみとした、いい歌が。
そこで、初演の日に興味深い
ことが起こったのである。歌つ
たのは旧制松山高校の今の姿で
ある愛媛大学の合唱部とアマチ
ユアの愛媛交響楽団だ。アマチ
ユアの愛媛交響楽団が、本番
のあと、学生も楽団員も帰
らずにロビーでこれらの歌を歌
いはじめた。すると、全国から
集まったお年寄り、すなわち上
は九十歳くらいの方まで含む「旧
制」の同窓生たちも並び、とも
に肩を組んで、いつまでも歌い

つづけたのだ。十八歳から
九十歳までが感動でうらやま
ながら歌う大きな輪を眺め、僕も、
高校時代の海で先輩たちに教わ
った歌の数々を思い出していた。
「歌」が持つ力について、さま
ざまに語ることができたろうが、
同じ時、いや同じ時でなくても、
同じ学び舎で過ごした者たちを、
一瞬にして緊密に結びつけてし
まうのも、間違いない。歌の力な
のだらう。
「学校の歌」が好きなのは長
く書きすぎたかもしれない。だが、
だから、ある時、岐阜県の中学
校(土岐市立濃南中)が、校歌
ではなく「学校のイメージソング」
を作りたいので生徒から歌詞を
募集する、その歌詞に作曲して
ほしいという依頼をしたときも、
僕は楽しんで書き、同校の生
徒たちによる録音にも立ち会っ
たのだ。
つい先日、宮城県登米高等
学校創立100周年の行事に参加し
た。同校では、その行事の一環とし
て、「応援歌」の歌詞と旋律を生徒た
ちから募集し、その審査と添削、
さらには合唱や吹奏楽への編曲
などを僕に依頼してきたのである。
多くの仕事に追われる中で、作
業はきつかったが、しかしこの
仕事も、そして生徒たちがその
新しい歌を歌い、演奏するのを
聴くのも、僕はおおいに楽しん
だのだ。
かのプログラムも、学生歌を
使って名曲「大聖堂序曲」を
書いたではないか。学校の歌が
どれほど長く人の心に住みつづ
けるかを知るからこそなのだ。
僕がそれを樂しめるのは、今も
僕は校歌の作曲の仕事をつづ
けている。オペラと並行だが、
その片手間ではない。決して。
(作曲家)

平成十五年十月十日発行の読売新聞
「学校の歌」より転載致しました。
読者 池辺晋一郎
交響曲 愛媛交響楽団、濃南高中



特集 中津高等学校・創立100年の歴史

# 中津高等女学校沿革

仁科吉介(十五回生)

平成十六年四月、中津川本町に中山道歴史資料館がオープンした。そのため、中津川市よりの依頼によって、市岡本陣家文書を整理している。

最初から余談となるが、その中に「池村久兵衛書状」がある。慶応元年十一月二十六日付のもので、宛名は「御本陣 宗匠 間君」などとなっている。御本陣とは中津川宿本陣の当主市岡股政で、「夜明け前」の浅見景蔵、宗匠とは中津川村庄屋肥田通光、同じく小野三郎兵衛、間君とは間秀矩、蜂谷香蔵である。池村久兵衛とは、京都の染物商で、伊勢久が通称である。

その手紙の内容は、西郷隆盛の内意によって薩長同盟が結ばれる。そうなれば、世の中は面白いことになるというものである。薩長同盟の締結はその翌年の一月のことであるので、中津川宿の平田門人たちは事前にその情報をつかんでいたことになる。

さらに面白いことに、その年の十一月市岡と間は上京したが、その日記に「西郷、桂、坂本」という名前が記してある。彼らが上京して、薩長同盟の動きがあることを察知していたのである。

このように、史料を読み進める中で、時代は大きく下るが、「大正二年版中津町勢要覧」というものが出てきて、その中に標題の件が書かれていたので、それ

をそのまま転記して、中津高等女学校の沿革とする。「当間全右衛門氏、日露戦役戦捷記念シテ校舎校地ヲ新築附シテ、高等女学校ヲ設シ、之ヲ経常費セントスルノ議ヲ提唱セシヲ以テ、町八同氏ノ美譽ヲ賛シ、町立シテ之ヲ設立スルノ議ヲ決シ、明治三十九年二月十五日ヲ以テ設立ヲ稟請セシニ、

全年四月九日之ヲ認セラレタリ、是ニ於テ、全月十九日中津尋常小学校雨天体操室ヲ一時校舎ニ借用スルノ認可ヲ得テ、生徒ヲ募集シ、全月三十日ヲ以テ開校スルニ至レリ、常時入學セシモノ本科第一學年二十七名、全第二學年三十六名、技藝専修科第一學年二十三名アリ、之ト同時二間氏ハ校舎ニ階建一棟、小使室便所等ノ附属建物新築ノ工ヲ起シ、

明治四十年三月二至リ、略新築校舎ニ於テ教授シ得ルニ至レルヲ以テ、全年四月一日移転セリ、全年二月二十五日全部竣工ヲ告ケシヲ以テ寄附者ハ之ヲ町ニ引繼キ、町ハ校舎充用ノ義ヲ稟請シテ全四十二年六月十七日認可ヲ經タリ、全年四月二日間氏ハ更ニ特別教室、階建一棟ノ新築ニ着手シ、同年十一月竣工ヲ以テ、同年十二月二十五日ヲ以テ校地千八百一十六坪ト共ニ之ヲ町ニ引繼ガレタリ

而シテ校地三千五十九坪中、残余ノ千二百坪余ハ無料借地トシテ之ヲ使用スルコト、セリ、其寄附ニ係ル校地價格ハ金四千五百六十圓ナリトス、其後明治四十二年二至リ金五百餘圓ヲ支出シテ門柱及周圍ノ柵ヲ建築シ、校地ヲ堀鑿シ門内ノ生徒通路ヲ敷設寄附セリ

平成十四年に引続き、平成十五年八月十日(日)中津川公園陸上競技場におきまして、「第二回中山道中津川宿親善蹴球大会(シニアサッカー)」を開催しました。この大会は、平成十四年に日本で開催された「2002 FIFAワールドカップ」並びに「中津川市制施行五十周年」を記念して、中津高校サッカー部OB会が主催、中津川市教育委員会が後援して行われた大会でありましたが、本大会を継続してほしいとの各々から多くの要望に応じて、中津高校同窓会並びに三野新聞社が後援として加わり、第二回として企画されたものです。

参加チームには、愛知県岩倉市、長野県飯田市、岐阜市、高山市、東濃、そして中津高校サッカー部OBの六チームが集まりました。

参加条件が年齢四十歳以上であるため、試合は二十分ハーフで行い、ルールはチャージやスライディングタックルなし、何人交代してもよいという「シニアルール」で行われしました。この日は朝から大変暑い日でしたが、選手達は見聞しがとて、も素晴らしい場所、また整備の大変行き届いた芝生グラウンドでサッカーができることありまして、とてもシニアとは思えないほどハツシアとされました。

## 部活OB会 第二回中山道中津川宿親善蹴球大会

(シニアサッカー)

中津高校サッカー部OB会

会長 吉川義康(十八回生)

チームには十九名のOBの方々が集まりましたが、この中には遙か遠く福島県から駆けつけた先輩もおられました。また、中津高校サッカー部創設時の顧問の糸魚川忠平先生も当日会場に駆けつけてくださりまして、ご熱心に試合を観戦されました。

優勝は飯田高松FC、第二位 岐阜シニア選抜、第三位 東濃合同チーム、第四位 飛騨FC、第五位 中津高校サッカー部OBチーム、第六位 岩倉FCゴールドという結果となりました。

大会終了後は、バルティールの庭園に集まり、大会の反省並びにOBの方々の近況などを楽しく語り合い、思い出深い、暑い夏の日を過ごしました。



創立20周年記念行事

その他明治四十年町費ノ外町内有志者ヨリ金千三百餘圓ノ醸金ヲ得テ教授器械標本圖書ヲ購入シ、爾來年々之ヲ補充充テ忘ラズ、漸次整備ヲ見ルニ至レリ

寄宿舎ハ明治三十九年四月二十七日認可ヲ經テ、民家借用シ、年々修繕改良ヲ加ヘ、大正二年四月入學生増加シタレハ更ニ隣家ノ二階教室ヲ借りテ「收容セリ」

「今日は、先生のお車はあ...」と先生の家を通る度に在宅か、そうでないかと察しました。しかし、今は先生のお車はひっそりとそこにあります。ああ、先生はもう現世にはお見えにならないんだ。先生は昨平成十五年七月九日の夕方急性心不全でお亡くなりになりました。



## 恩師 篠原 亨先生を偲んで

藤井 正彦(六回生)

の展覧会に資料を出展されたり、NHK「この時空は動いた」の番組の最初に出演され、皇女和宮関係の文書、器具、座敷等を公開説明なさいました。また、先生の家は加賀前田利家の重臣篠原出羽守一孝を祖としています。これもお家の資料から判明し、金沢の篠原本家とも連絡がとれ、何度かお会いになり遠縁の絆を深められました。こうしたことにより、篠原家のロマンが大車庫に主を待つかのように、ひっそりとそこにあります。ああ、先生はもう現世にはお見えにならないんだ。先生は昨平成十五年七月九日の夕方急性心不全でお亡くなりになりました。

先生は多少糖尿の気がおありで、健康管理には気を配っておられました。また、先生は日々家のこと、地域のこゝろなど多忙な毎日でありました。このように、坂本の地域での五代目、江戸時代の初期から当地(茄子川中町)に住み、代々この山村支配地木曾方の庄屋として、村役人を勤め、また、この地の多くの新田開拓等に携わり、この村にとっては大変大きな功績を残された家筋です。

このように、坂本の地域での五代目、江戸時代の初期から当地(茄子川中町)に住み、代々この山村支配地木曾方の庄屋として、村役人を勤め、また、この地の多くの新田開拓等に携わり、この村にとっては大変大きな功績を残された家筋です。

こうして、先生も我が家のことについて関心を持たれ、三十年程前から保存されていきました古文書などの古記録を分類整理され、篠原家古文書目録をお作りになり、その中の一部は中津川市史や岐阜県史にも掲載されておりました。また、一昨年には中山道開設四百年に際し、県や市

## 恩師訃報

平成十三年、現在までになわかつた方々です。  
小早川順一先生  
昭和二十八、三十年在籍  
市川 正先生  
平成八、十、十六年在籍  
間 喜久雄先生  
昭和二十七、三十七年  
昭和五十三、五十八年在籍

中村光子さん(特回生)の卒業記念ノートより



一月三十日に洞田和男、和園先生による「ふたつ」展のパーティがありました。参加された笠木茂画伯が一つの作品の前でふとらさられました。

## 画伯の信条

その作品とは「守拙」と書かれた和園先生の小品です。曰く、「今も自分の技巧について巧いとは思っていない。そんな事を思うとは思っていない。自分は稚拙であるので常に精進し、思いついた描き方をしない。平常心に心がける。稚拙であることを忘れない事が大事である。」側には人たちは黙ってしまいました。

(吉川光彦 記)



# 平成十六年度 全日同窓会総会開催

## 五月八日(土)「勝宗」にて役員会・総会・懇親会盛大に開催



中津川駅前勝宗旅館に於いて岐阜県立中津高等学校の平成十六年度同窓会総会が盛大に開催されました。

平成十七年十月二十二日(土)・二十三日(日)の両日には、中津高等学校創立一〇〇周年の記念式典の開催が迫っています。記念事業の具体案も提起され、質疑・討論の結果決定されました。

尚、関西支部からは加藤純一氏(高十

回卒)、中京支部からは井坂孝信氏(高七回卒)が出席されました。役員人事は昨年度と引き続きとなりました。

総会後、同窓生の懇親会が開催され、七十名の参加がありました。幹事は高十四回卒と高二十四回卒が担当致しました。

平成十七年度の総会



は五回生、二十五回生が幹事です。日時はお記をくら下さい。

# 旭陵ゴルフコンペが開催されました

## 平成十五年九月二十三日 秋分の日、旭陵ゴルフコンペが恒例により多数の参加者により開催されました。

実行委員会及び事務局のお世話で過去の参加者全員に通知を発送し参加者を募集。本人や各学年の参加者の希望をできる限り組み合わせに反映して当日はユージュリィンゴルフクラブを貸しきり状態で利用し、盛大な大会になりました。年々参加者も増え、女性プレーヤーの姿も増えグリーンに彩を添え、あちこちで明るい笑い声や悲鳴が聞こえ、楽しい一日となりました。プレー後は同クラブのクラブハウスにて盛大なパーティー



と表彰式が行われました。今回は五平餅の屋台も動員されて評判を呼び、あちこちのテーブルに談笑の輪ができました。同窓会長、大野 互 記(七回生) 連絡先は下記をご覧ください。

# 平成十六年度 中津高校定時制同窓会総会を開催



中津高校定時制同窓会 総会

久校長、野々村静香教頭を始め学校関係者四名が参加され総勢十九名が集った。挨拶に立った和田会長は、「定時制同窓会も来年に迫った母校一〇〇周年を精一杯取り組みたい」と話された。続いて岡崎校長が定時制の近況を、「今年卒業式は大変に感銘深く、来賓として参加された中学校長も随分感激され、自分の中学校で生徒たちに話された。今年度は昨年よりも生徒数が増えて七十四名となり、落ち着きも少しずつ出てきている。学校行事への保護者の参加も増えている」と話された。

その後議事に移って、平成十五年度の事業報告と会計報告、和野副会長、小川博・佐藤和男副会長、横家曠会計、三役の留任が満場一致で承認された。また、今年の三月まで一一年間定時制に勤務され

恒例となっている七月の第二日曜日の十一日、今年は折しも第二十回参議院選挙の当日に平成十六年度の定時制同窓会総会がディア中津川で開かれた。選挙の立ち会い人になった同窓生もあり、今年には昨年よりも人数は少なかったが、同窓生十五名と岡崎

た梅村薫先生を労って花束の贈呈が行われ、同窓会の特別会員に推薦することが了承された。さらに歌舞伎の写真などでヨーロッパの芸術界から高く評価され、この度アートオリンピックインアテネの展覧会で「翼」の写真がアテネ市長賞を、プロウ城国際芸術祭で「手鏡を持つ女」が、ルイ十二世芸術至宝賞を授賞された高木孝雄氏(昭和二十九年普通科卒業)の功績を出席者全員で称え、氏に贈呈されたフランスの特製ワインを提供いただき、中村幸雄前会長の音頭で乾杯した。

懇親会にはさらに盛り上がり、あちこちで昔話や近況報告に花が咲き、最後は中津高校校歌を高らかに歌い、来年の七月十日(第二日曜)の再会を誓いあつて閉会し、二次会へと繰り出して行った。

# 定時制四分校・本校 交流懇親会開催

平成十(一九九八)年の定時制五十周年記念事業を定時制本校とあつての四分校の同窓生が一体となって成功させたのをきっかけに始まった本校分校交流懇親会も、平成十五年度で五回目を迎え益々盛大になってきた。今回は苗木分校が幹事役となり、五月十七日(土)午後二時半から新緑映える苗木城跡の麓の「しるやま」で開かれた。

加子母分校二名、付知分校二名、福岡分校二名、苗木分校三名、本校六名の同窓生の他に、岡崎校長、野々村教頭他学校職員五名が加わり、二十二名の出席者で盛り上がった。懇親会に移る前に、五十周年記念事業と併行して完成された苗木分校跡の記念碑を見学

し、立派な記念碑に一同は感銘した。

懇親会は、しるやま名物の美味い五平餅に舌鼓を打ちながら、時の経つのを忘れぬが嫌で記念写真に収まり散会した。なお平成十六年度交流会は、下記の通り十月十七日(日)の予定である。



〇Bの皆様方におかれましては益々ご健勝の事と存じます。

昨春「旭陵だより」でご案内しました一〇〇周年記念事業の一環として八十・九十周年で大変好評だった芸術展の開催計画に芸術の授業を担当された先生方、中津高校美術部、書道部〇Bを中心に、また卒業後両部〇B外で作品発表されていく方にも広く作品を募集いたしましたところ、現在出品予定の皆様方には改めて詳しい最終の出品依頼書、委員長よりありがとうございます。追ってご連絡させていただきます。

**第七回総会**

●平成十六年九月十二日(日)十五時

●会場：ホテル「ブルバウ」

●第一部 総会

●第二部 講演会 大野三氏(九回生)

●第三部 懇親会

四十九名八十名近い作品の出品承諾がえられました。ご協力を宜しくお願いいたします。

会場会期は平成十七年十月十九日(二十五日)駅前ふれあい広場、中電ギヤラリーを予定致しております。

カラー図録を出版する予定でおりますので、出品者の皆様方には作品搬入を展覧会前八月末までに所定の場所に自己搬入・搬送の予定をお願いいたします。出品予定の皆様方には改めて詳しい最終の出品依頼書、委員長よりありがとうございます。追ってご連絡させていただきます。

創立一〇〇周年「記念芸術展」作品募集

〇Bの皆様方におかれましては益々ご健勝の事と存じます。

昨春「旭陵だより」でご案内しました一〇〇周年記念事業の一環として八十・九十周年で大変好評だった芸術展の開催計画に芸術の授業を担当された先生方、中津高校美術部、書道部〇Bを中心に、また卒業後両部〇B外で作品発表されていく方にも広く作品を募集いたしましたところ、現在出品予定の皆様方には改めて詳しい最終の出品依頼書、委員長よりありがとうございます。追ってご連絡させていただきます。

旭陵ゴルフコンペ

平成十六年九月二十三日(木)

ユージュリィン

連絡先 中津川市津川 六八八-二五四

ユージュリィンゴルフ倶楽部 電話 〇五七三-六八六-二二

TEL 〇五七三-六八六-二二

FAX 〇五七三-六八六-二九

平成十六年度

**関東OB会**

十二月十三日(土)

★平成十六年

十月十七日(日)午前十時

よしむら(落合瀬戸)

多数のご参加を

お待ちしております。

定時制四分校・本校

交流懇親会

★平成十六年

十月十七日(日)午前十時

よしむら(落合瀬戸)

多数のご参加を

お待ちしております。

中津高校定時制

同窓会総会

★平成十七(二〇〇五)年

七月十日(日)午前十時

ディア中津川

同窓生の皆様のご参加を

お待ちしております。

平成十七年度

中津高校

同窓会総会

●五月十四日(土)午後三時

●勝宗 幹事

15回

25回

多数のご参加をお願い致します。

湯元坂

●平成十七年度

中津高校

同窓会総会

●五月十四日(土)午後三時

●勝宗 幹事

15回

25回

多数のご参加をお願い致します。



